



科目：
ビジネスエシックス、
組織行動論、
経営学入門、
経営戦略論

篠原 欣貴 准教授

専門分野：組織マネジメント、ビジネス戦略

3 Tips:

1. 前半は講義、後半は学生に考えさせる授業構成
2. 予習課題を通じて学生のモチベーションを高める
3. オンライン授業である長所を活用する
(チャット機能やワードを利用学生に
もっと簡単にシェア)

Q: 授業構成や授業のやり方で工夫している部分はありますか？

A: 以前、私が担当していた授業の準備は去年のコンテンツから新しく出ている情報にアップデートする作業を毎回 1, 2 時間くらいかけてやっています。そこまで多くの時間を費やしてはいたのですが、新しい授業を準備する時は一コマの準備に 10 時間くらいかけて準備しています。

授業のやり方では、全科目に対して 95 分間全部私が説明することをしていません。授業の 95 分の内、最初の 45 分間は私が説明をします。その後、5 分休憩時間を入れ、

残りの 45 分は学生が積極的に参加してもらうように構成しています。後半の内容は前半で説明した理論を学生たちが用いて考えさせるケースを用いています。そして、学生には予習と復習のコンテンツを提供しています。毎回の授業で予習 / 当日授業 / 復習このサイクルは必ず回すようにしています。予習用では授業内容に対するクイズなどを準備します。復習用では 300 字か 500 字くらいの短いレポートを課題として出しています。

Q: 45 分の講義ですと理論を説明する時間が短いときもあるかと思いますが、内容を 45 分でまとめるために工夫した部分はありますか？

A: 対面の授業では私が話すスピードを上げて内容を全部こなしてました。ですが、オンライン授業になった後は回線の問題で早口だと伝わらない可能性があるので話す内容を絞って重要なポイントを話しています。一方、予習で出しているクイズは講義全体の内容をカバーしています。授業では重要なセオリーの説明に時間をかけています。

Q: 以前、ビジネスエシックスを受講しましたが、他の授業よりケーススタディーが多かったように思います。ケーススタディーを取り入れる理由はあるですか？

A: ビジネスエシックスは人の価値観が考え方に関連している授業なので、知識を入れることよりも学生が考える事の方が重要だと思っています。そして、学生に考えさせる教材としてケースがいいと思ったので、ビジネスエシックスの授業では毎回ケースを使っています。日本語開講ですがほとんど英語のケースを使っています。他

の講義でも英語のケースを用いているのですが、一回生向けの講義では 1000 words くらい、ビジネスエシックスなど 3 回生向けの講義では最大で 4000 words くらいの長さのケースを準備しています。授業では色々な意見がでるので相手を否定しないことを常に心がけています。ですから、ケーススタディーではどんな学生の意見でも聞き、その意見のバックグラウンドや説明を少し追加し、その意見に関して反対する意見を持っている学生がいるかなどを議論しています。また講義では学生同士が意見交換できるようにもしています。他に組織行

動論の講義でもケースを活用していますが、ケース以外にも決まったルールの中で自分の最大の利益を得ることが目標の交渉ゲームなど、様々なアクティビティを行うことで、間接的ではありますが講義で学習した内容が実生活においてどのように役立つのかを学生が体験できるようにしています。

Q: 学生のモチベーションを高めるために工夫している点がありますか？

A: モチベーションは他の人から影響を受

けて上がるのではなく、自分がやっていく内に自然と湧いてくるものだと思います。例えば最初はやりたくないと考えていた課題でも、一回やり始めると夢中になってどんどん進められるように、自分が取り組んでいく中でモチベーションは上がってくると思います。なので予習の意味もありますが、予習の課題を出すことで学生が次の授業の内容に興味を持てる機会になるのではないかと思います。そして人のモチベーションを一番下げることはその人が出した意見を無視することなので、チャットや学生の意見はなるべくピックアップしてま

す。グループワークに関してはピア・レビューを設けグループの中で全員仕事をするようにしていますが、それでも毎セメスターごとにグループワークが上手くいかないこともありました。このような場合、モチベーションは高いけどグループワークが（フリーライダーのせいで）上手くいっていない学生に対しては、「こうしなさい」という指示を出すのではなく、「どうしたいの？」と相手の意見を聞くようにしています。その学生が「他のグループに参加したいです」、と言えれば他のグループを紹介し

Question

- ・日本企業のCSR活動として具体的にどのようなものがあるだろうか？
企業名とその企業が行っている具体的な活動を示しなさい。



Respon:

で新しいグループで作業が上手くできるように促し、「個人課題に振り替えてください」、と言えれば課題を切り替えるなど、学生の要望に柔軟性を持って対応しています。

Q: オンライン授業で変わった部分とかありますか？

A: 休み時間を以前よりは細かく入れています。学生の中には連続で何コマも授業を聞いている場合もあるので、集中力が切れやすいことに注意して休憩時間を入れてま

入れる形です。オンライン授業になった後、以前よりはチャットの確認がすぐできるので学生の意見を対面よりピックアップできるようになりました。以前は、黒板に学生の意見を纏めてシェアしましたが、オンライン授業ではワードを画面共有し見せています。また、学生の意見を書いたワードは保存し、マナバでシェアしています。そして講義も録画し学生にシェアのリンクも送るなど、対面授業より学生に復習コンテンツを簡単に届ける事ができるのでこれはよかった部分だと思います。PPT は以前作ったものを使っていますが、経営学入門は回線



の問題が起こったりしたので以前の講義で使っていた動画を見せることは避けています。

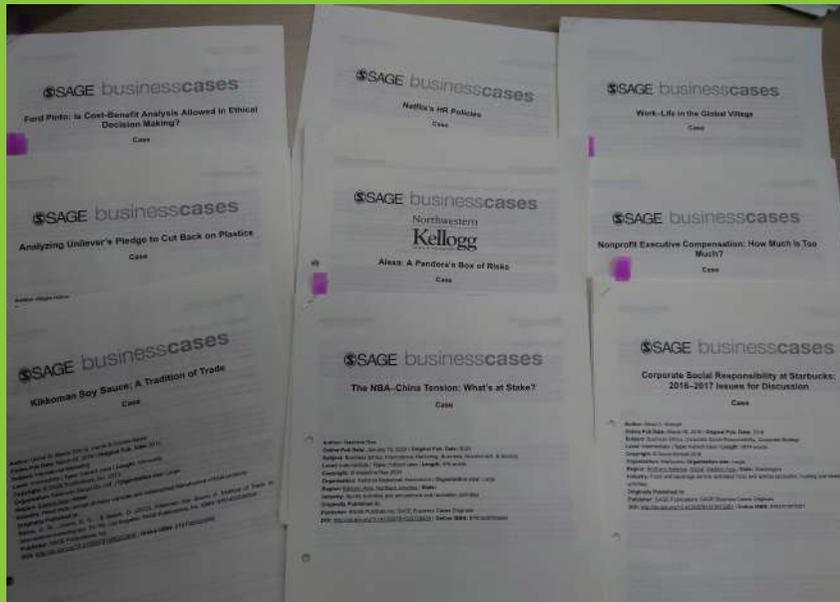
Q: 授業内容の改善する際、どのようなステップがありますか？

A: 授業評価アンケートでもらった学生からのフィードバックを参考に次のセメスターの授業内容を変えています。セオリーに関する説明は変わらない場合が多いですが、ケースは古くなったものは変更していきます。そして、内容を変えた時は予習 / 当日授業 / 復習のサイクルに合っているかに

気を付けるようにしています。新しいケースを探す時は日本語以外にも英語で検索しコンテンツを作ってます。検索以外にもマネジメント系の番組なども参考にし内容の改善をしています。

インタビューの感想

私は以前篠原先生のTAをしたことがありますが、前半で授業のセオリーを教え、後半では前半のセオリーを学生が考えるという授業構成がとても良かったと思います。受講していた学生もホワイトボードを使ってグループで話した意見を発表したり、交渉のゲームをしてその感想をシェアするなど、素晴らしい取り組みだと思いました。そしてケーススタディーについては、日本語開講の授業で英語のケースを扱っている部分も APU の強みが見えるいい教材だと思いました。



ビジネスエシックスの授業で使う「学生に考えさせる」
ケーススタディー

「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのかわかることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてください、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。

